

在宅介護実態調査 結果概要

【調査概要】

対象者	三田市内に住む高齢者 1,200 人 (要支援・要介護認定を受けている方から無作為抽出)
実施期間	令和 8 年 1 月 21 日 (水) ~ 令和 8 年 2 月 12 日 (木)
実施方法	郵送配布、郵送回収または WEB 回収 (回収率向上のための礼状兼督促はがきを実施)
回収状況	配布数 : 1,200 件 有効回収数 : 742 件 (郵送 : 672 件、WEB : 70 件) 有効回答率 : 61.8%

【総括】

1. 認定者の状態

【調査結果】

- 認定者の世帯類型は、「その他」が 35.0%、「単身世帯」が 33.2%、「夫婦のみ世帯」が 29.5%となっています。
認知症自立度※がⅢ以上の認定者については、介護者の 4 割以上が「認知症状への対応」に対して不安を抱えています。 ※認知症自立度 (本編 P22)
- 施設等への入所・入居の検討状況について、全体では「入所・入居は検討していない」が 67.8%で最も多くなっています。
- しかし、要介護 3 以上では「検討中」が 20.3%、「申請済み」が 13.1%となっており、単身世帯においても「検討中」が 17.4%、「申請済み」が 16.6%と高くなっています。

【課題】

- 認知症の症状が進むにつれて家族の対応不安が増大し、要介護度の上昇や単身世帯であるほど施設入所の検討・申請が進む傾向にあります。重度化したり独居であったりしても、できる限り在宅生活を安全に支えられる仕組みづくりが課題となっています。

2. 介護者の状態と勤務継続

【調査結果】

- 主な介護者の性別は女性が 66.1%、男性が 29.1%であり、年齢は「60 歳代」以上が 77.8%を占め、高齢化が進んでいることが伺えます。
- 介護の頻度については、「ほぼ毎日ある」と回答した割合が 40.0%で最も多くなっています。
- 現在行っている介護内容は、「外出の付き添い、送迎等」(72.6%)、「その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等)」(71.5%)、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」(68.0%)が多くを占めています。
- 今後の仕事と介護の両立については「問題はあるが、何とか続けていける」が 48.0%

で最も多い一方で、介護を主な理由として「主な介護者が仕事を辞めた」とする割合も 8.9%存在します。

- ・ 勤め先からの支援として、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（30.3%）、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（26.3%）、「介護をしている従業員への経済的な支援」（22.2%）が仕事と介護の両立に効果があると考えられています。

【課題】

- ・ 主な介護者の 7 割以上を 60 歳代以上が占めており、高齢介護者への負担軽減や支援が課題です。
- ・ 介護を理由とした離職が約 9%発生しており、これを防ぐためには、勤め先における「介護休業・休暇制度の充実」や「労働時間の柔軟な選択」など、働きやすい職場環境の整備が求められています。

3. 在宅介護の継続

【調査結果】

- ・ 介護者が現在の生活を継続していくにあたり不安を感じる介護は、「外出の付き添い、送迎等」（24.9%）、「認知症状への対応」（21.6%）、「入浴・洗身」（21.0%）が上位です。
- ・ 要介護度別にみると、要介護 1・2 では「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」が約 3 割と多く、要介護 3 以上では「日中の排泄」「夜間の排泄」が約 3 割と多くなっています。
- ・ 現在「介護保険サービス以外」の支援で「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」を利用しているのは 10.5%にとどまる一方、今後の在宅生活継続に必要なサービスとしては「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」（33.8%）や「外出同行（通院・買い物など）」（29.4%）へのニーズが非常に高くなっています。
- ・ 認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくために地域住民の協力があると助かることについては、「話し相手」（55.3%）や「認知症への正しい理解」（53.6%）が多く求められています。
- ・ 要介護 3 以上で訪問系サービスを月に 15 回以上利用している人では、14 回以下の人に比べて「夜間の排泄」「入浴・洗身」「衣服の着脱」などに不安を感じる割合が少なくなっています。

【課題】

- ・ 要介護度があがると「排泄」や「認知症状への対応」に関する不安が顕著になり、これが在宅生活継続の困難（在宅限界）につながり得ます。十分な回数（月 15 回以上など）の訪問系サービスを適切に導入・活用し、介護者の不安や負担を軽減することが課題です。
- ・ 移送サービスや外出同行に対するニーズが非常に高いものの、現在の利用状況には大きな乖離があるため、移動支援サービス等のさらなる充実が求められています。
- ・ 認知症患者やその家族が地域から孤立しないよう、「話し相手」となれるコミュニティの存在や、地域住民の「認知症への正しい理解」を促進することが課題です。

調査結果抜粋

調査の主要な目的と一致する項目及び第 10 期計画において重点となる項目を抜粋して掲載しています。

【分析結果を見る際の留意点】

- ・「n」及び「N」は「number」の略で、比率算出の母数を指します。
- ・単数回答の場合、本文及び図表の数字に関しては、すべて小数点第 2 位以下を四捨五入し、小数点第 1 位までを表記しています。このため、百分率の合計が 100.0% とならない場合があります。
- ・複数回答の場合、MA (Multiple Answer) 、LA (Limited Answer) と記載しています。

対象者の属性

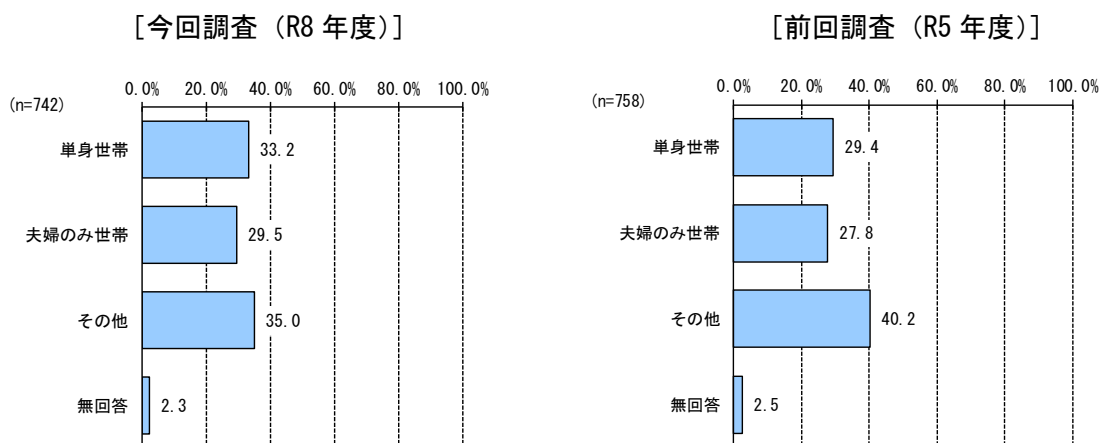
世帯類型

●問2 調査の対象者の世帯類型について、ご回答ください。（1つだけ）（本編 P.2）

【全体】

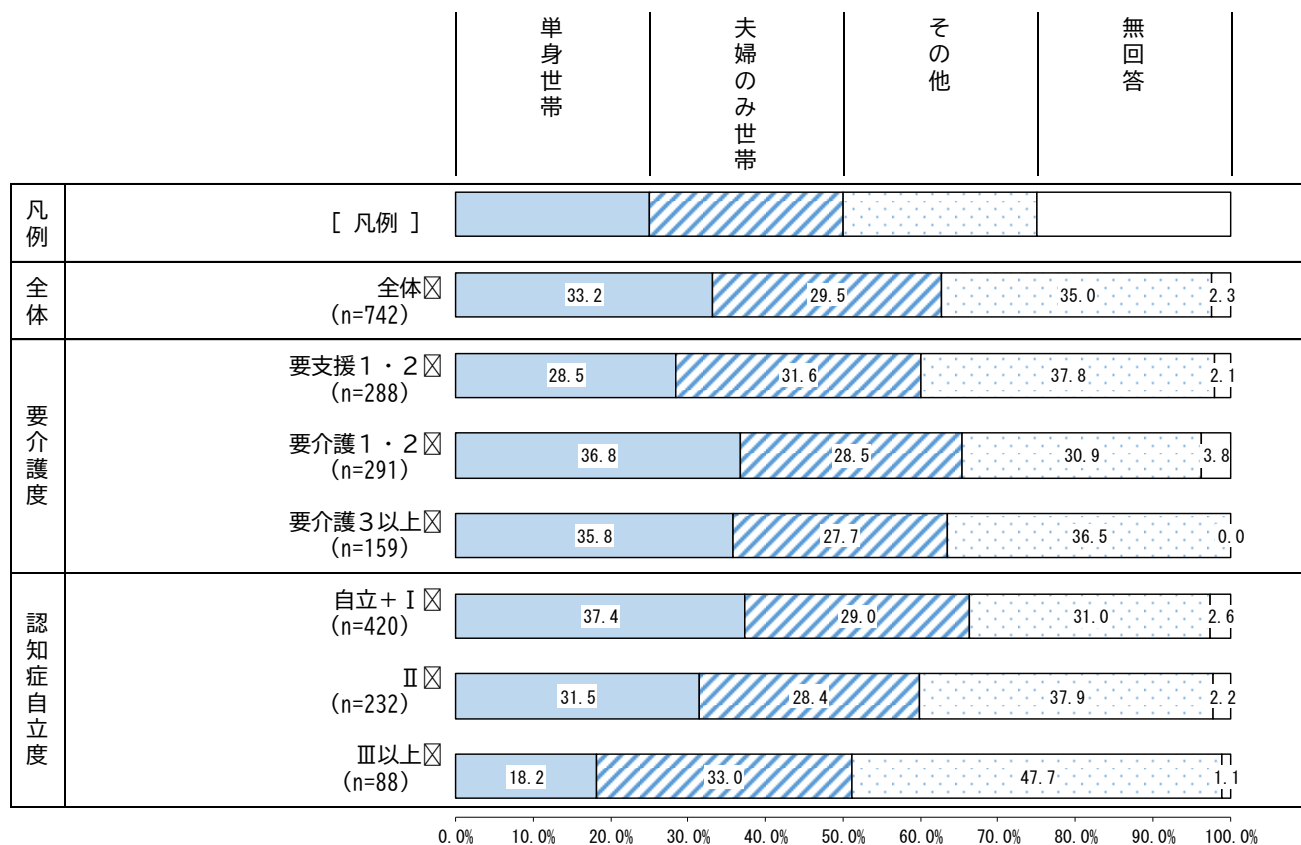
○ 世帯類型について、「その他」が 35.0%で最も多く、次いで「単身世帯」が 33.2%、「夫婦のみ世帯」が 29.5%となっています。

【世帯類型】



【要介護度・認知症自立度別世帯類型構成】

[今回調査 (R8 年度)]



介護の頻度

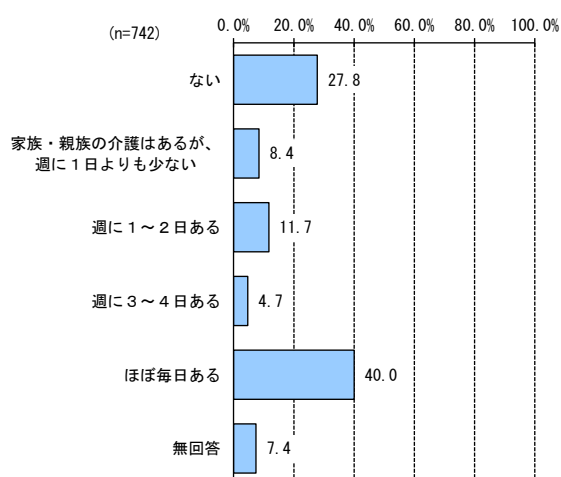
- 問18 調査の対象者は、ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。
(1つだけ) (本編 P.3)

【全体】

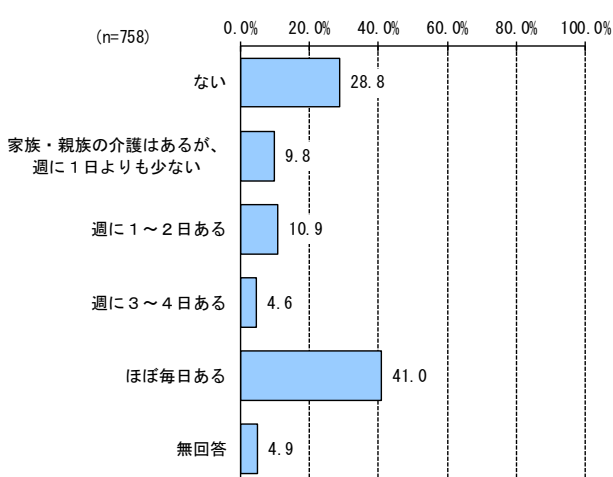
- 介護の頻度について、「ほぼ毎日ある」が 40.0%で最も多く、次いで「ない」が 27.8%、「週に1～2日ある」が 11.7%となっています。

【介護の頻度】

〔今回調査 (R8 年度)〕



〔前回調査 (R5 年度)〕



主な介護者の性別・年齢

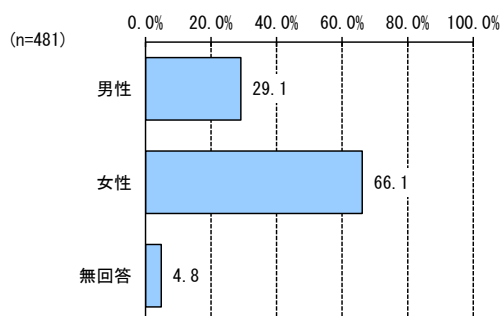
- 問21 〔家族、親族から介護を受けている方のみ〕調査の対象者を、主に介護している方の性別について、ご回答ください。(1つだけ) (本編 P.4)

【全体】

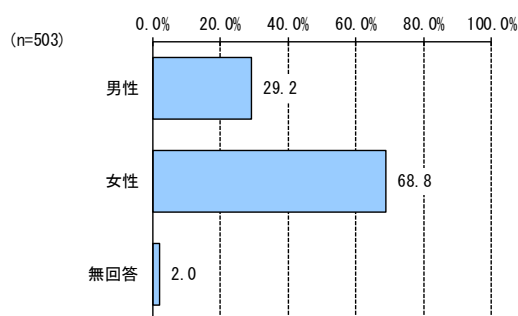
- 主な介護者の性別について、「女性」が 66.1%、「男性」が 29.1%となっています。

【主な介護者の性別】

〔今回調査 (R8 年度)〕



〔前回調査 (R5 年度)〕



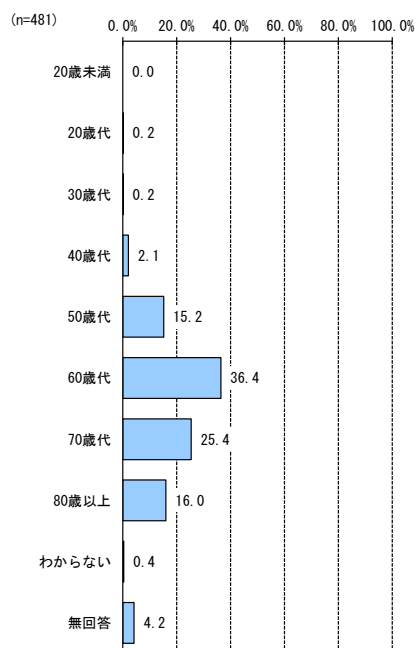
- 問22 「家族、親族から介護を受けている方のみ」調査の対象者を、主に介護している方の年齢について、ご回答ください。（1つだけ）（本編 P.5）

【全体】

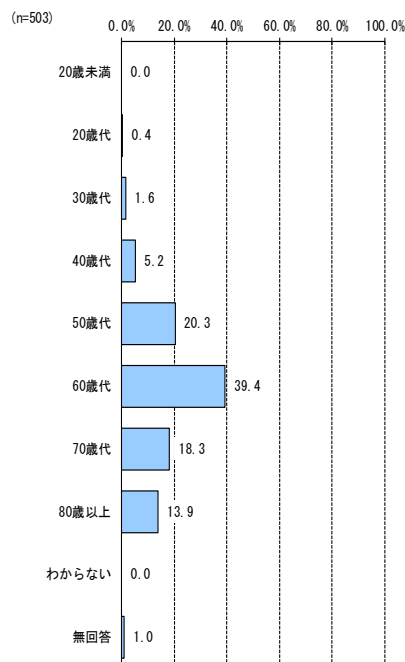
- 主な介護者の年齢について、「60歳代」以上が77.8%となっています。
- 前回調査と比べると、「60歳代」以上は6.2ポイント多くなっています。

【主な介護者の年齢】

〔今回調査（R8年度）〕



〔前回調査（R5年度）〕



現在行っている介護

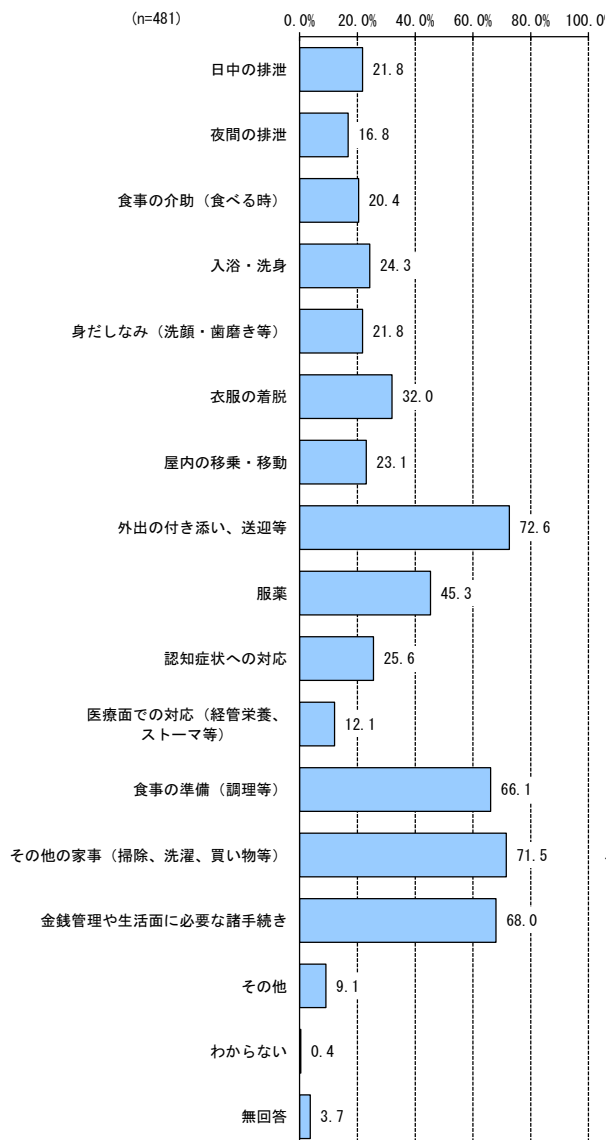
- 問23 「家族、親族から介護を受けている方のみ」現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(いくつでも) (本編 P.6)

【全体】

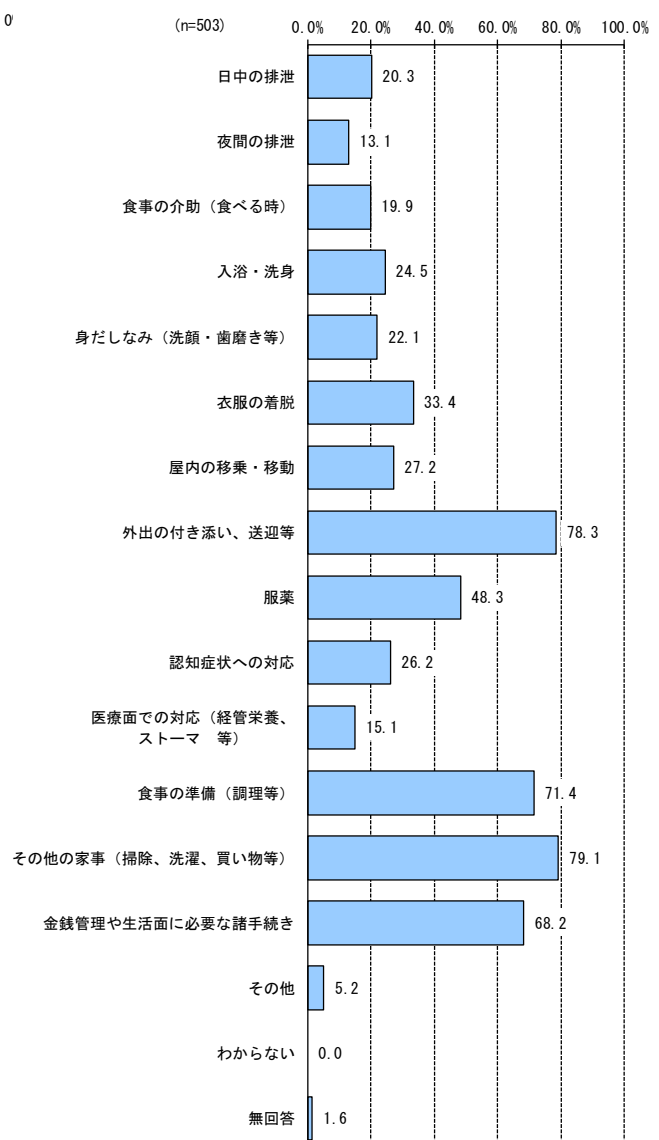
- 主な介護者が行う介護について、「外出の付き添い、送迎等」が72.6%で最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が71.5%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が68.0%となっています。
- 前回調査と比べると、「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」で5ポイント以上少なくなっています。

【主な介護者が行う介護(MA)】

〔今回調査 (R8 年度)〕



〔前回調査 (R5 年度)〕



不安に感じる介護

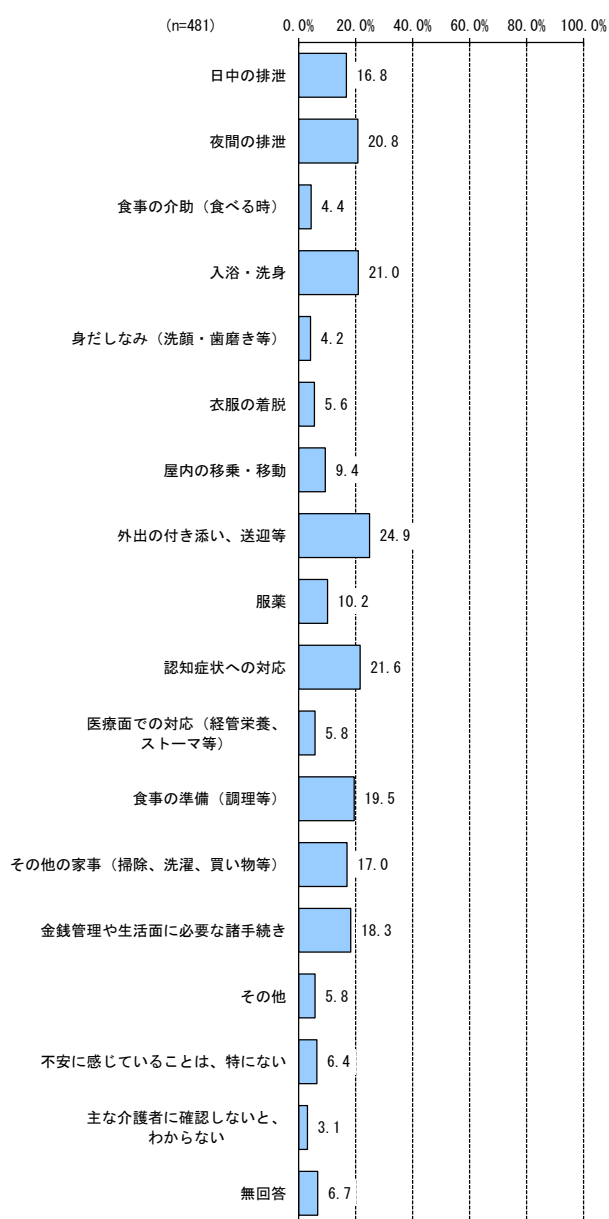
- 問24 「家族、親族から介護を受けている方のみ」現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（3つまで）
（本編 P. 7）

【全体】

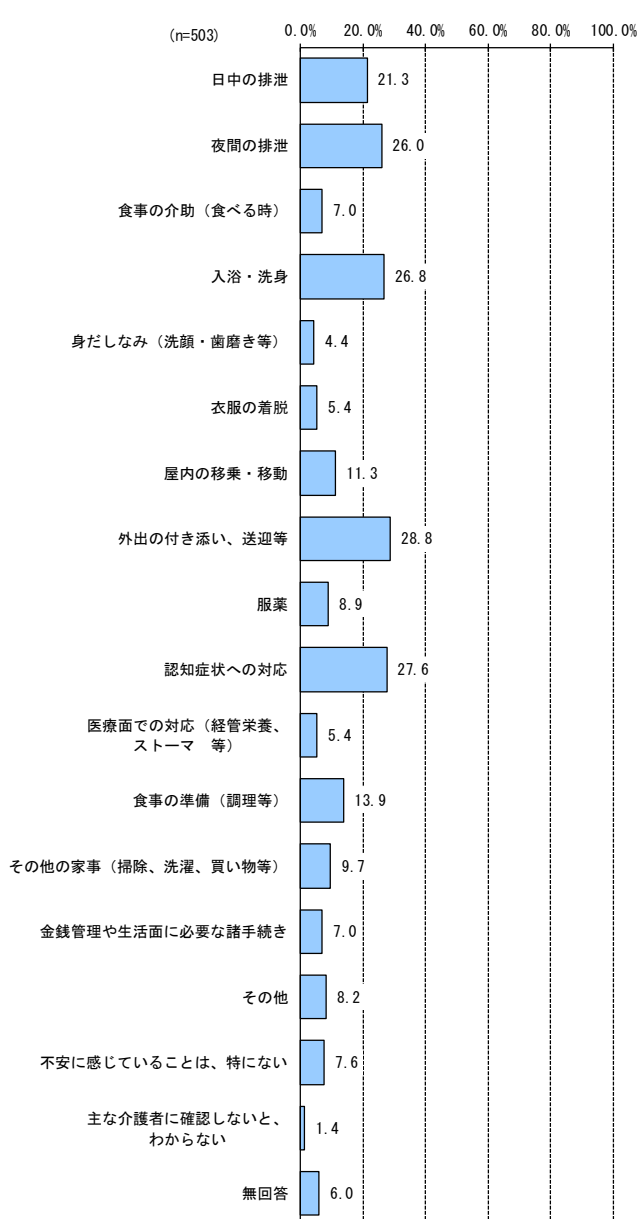
- 主な介護者が不安に感じる介護について、「外出の付き添い、送迎等」が24.9%で最も多く、次いで「認知症状への対応」が21.6%、「入浴・洗身」が21.0%となっています。
- 前回調査と比べると、「夜間の排泄」「入浴・洗身」「認知症状への対応」で5ポイント以上少なくなっています。一方で、「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」で5ポイント以上多くなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



介護離職

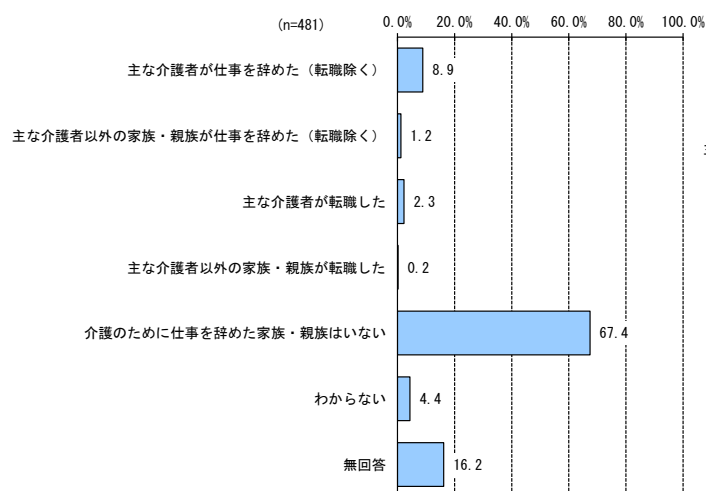
- 問19 「家族、親族から介護を受けている方のみ」 ご家族やご親族の中で、調査の対象者の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(いくつでも) (本編 P.8)

【全体】

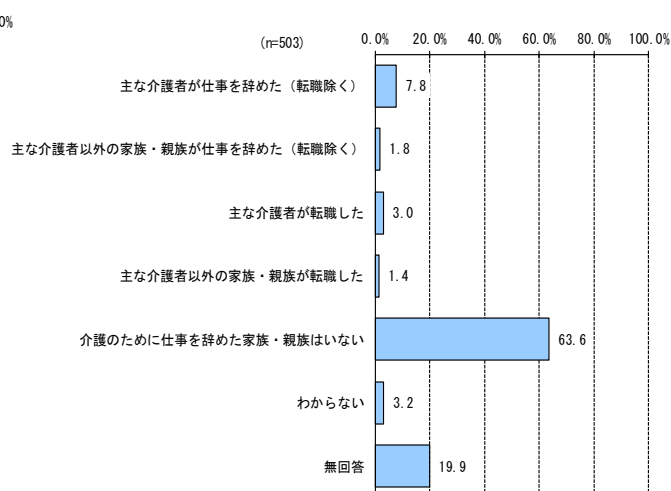
- 介護離職について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が67.4%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)」が8.9%、「主な介護者が転職した」が2.3%となっています。

【介護離職(MA)】

【今回調査(R8年度)】

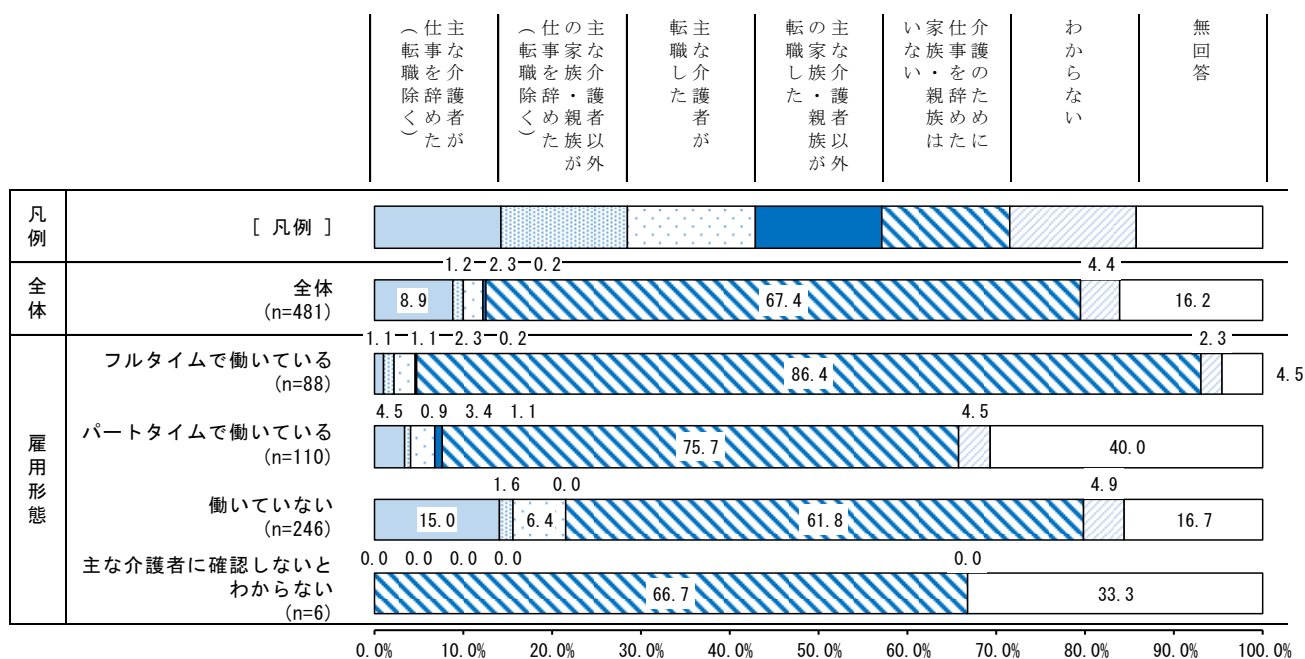


【前回調査(R5年度)】



【雇用形態別介護離職(MA)】

【今回調査(R8年度)】



今後の介護と仕事の両立

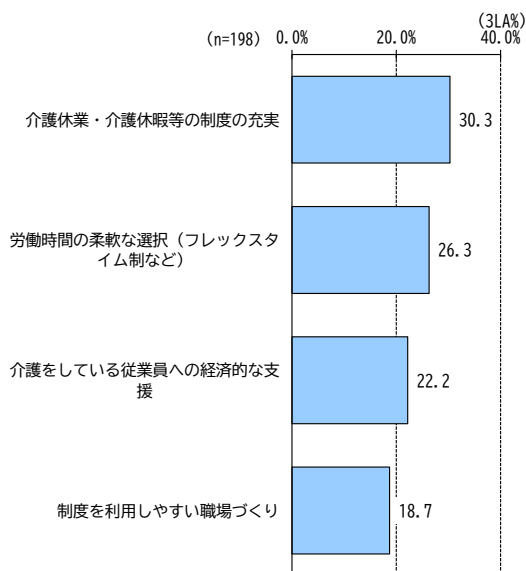
- 問27 〔主な介護者が働いている方のみ〕主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3つまで）（本編 P. 11）

【全体】

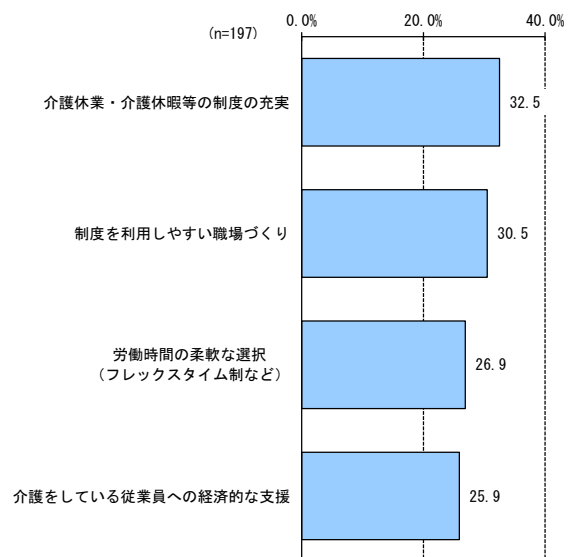
- 仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援について、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 30.3%で最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 26.3%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 22.2%となっています。
- 前回調査と比べると、「制度を利用しやすい職場づくり」が 11.8 ポイント少なくなっています。

【仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援(3LA)】

〔今回調査（R8 年度）〕

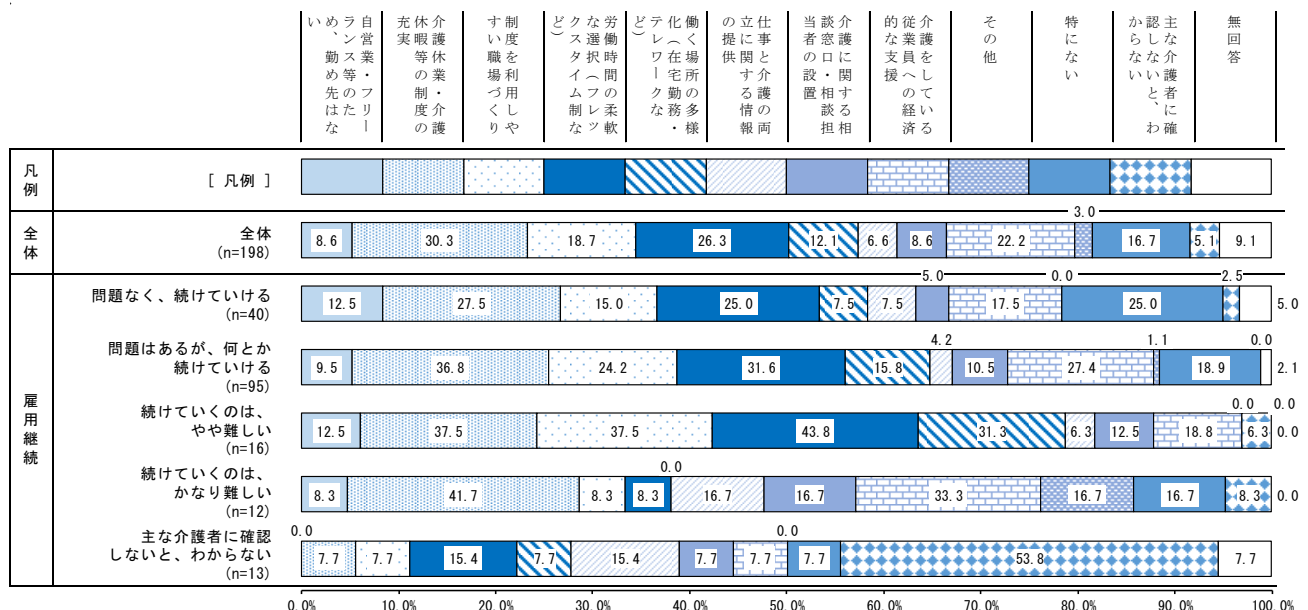


〔前回調査（R5 年度）〕



【雇用継続のために仕事と介護の両立に効果があると思う勤め先からの支援(3LA)】

〔今回調査（R8 年度）〕



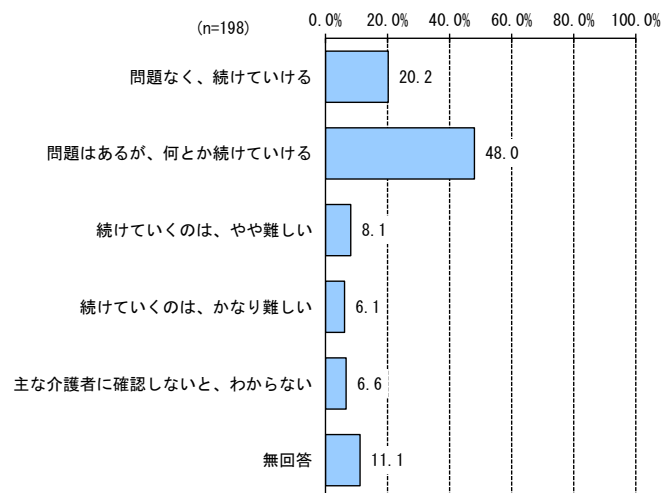
- 問28 「主な介護者が働いている方のみ」主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（1 つだけ）（本編 P.12）

【全体】

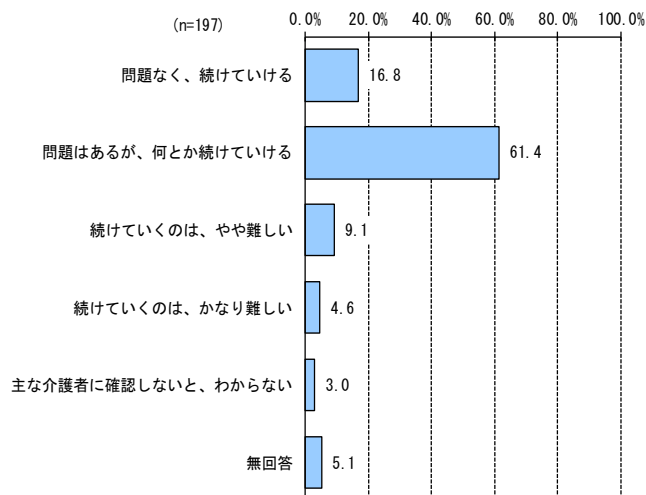
- 今後の仕事と介護の両立見込みについて、「問題はあるが、何とか続けていける」が48.0%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が20.2%、「続けていくのは、やや難しい」が8.1%となっています。
- 前回調査と比べると、「問題はあるが、何とか続けていける」が13.4ポイント少なくなっています。

【今後の仕事と介護の両立】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



現在利用している支援・サービス

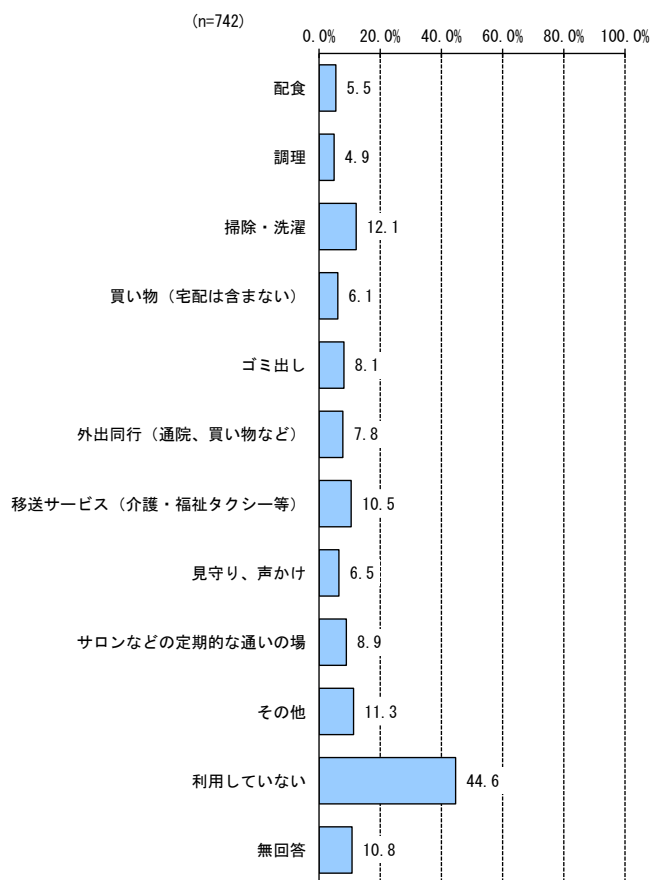
- 問7 現在、調査の対象者が利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(いくつでも) (本編 P.13)

【全体】

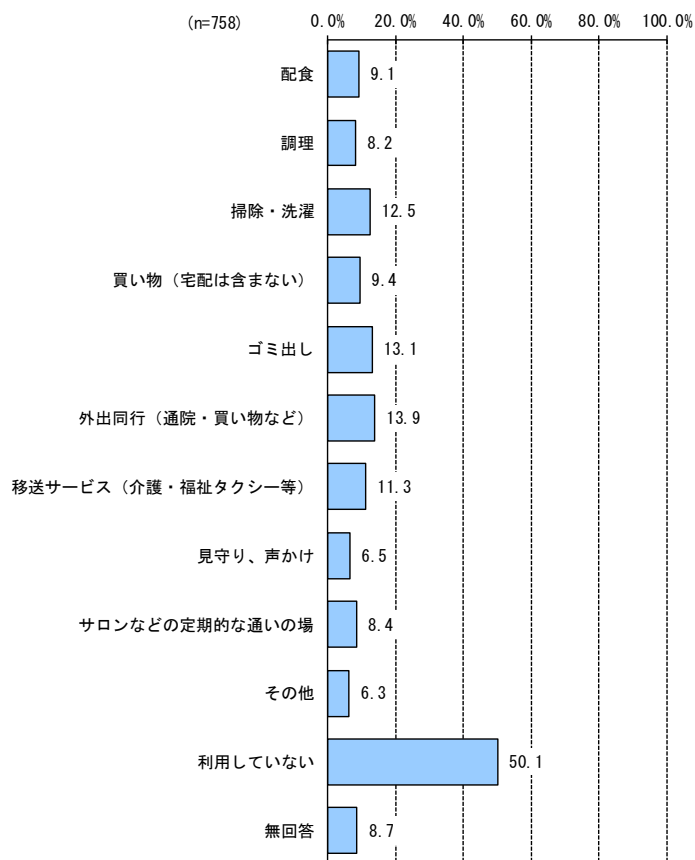
- 「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況について、「利用していない」が44.6%で最も多く、次いで「掃除・洗濯」が12.1%となっています。
- 前回調査と比べると、「外出同行（通院・買い物など）」が6.1ポイント、「ゴミ出し」「外出同行（通院・買い物など）」「利用していない」が5ポイント以上少なくなっています。

【「介護保険サービス以外」の支援・サービスの利用状況(MA)】

[今回調査 (R8 年度)]

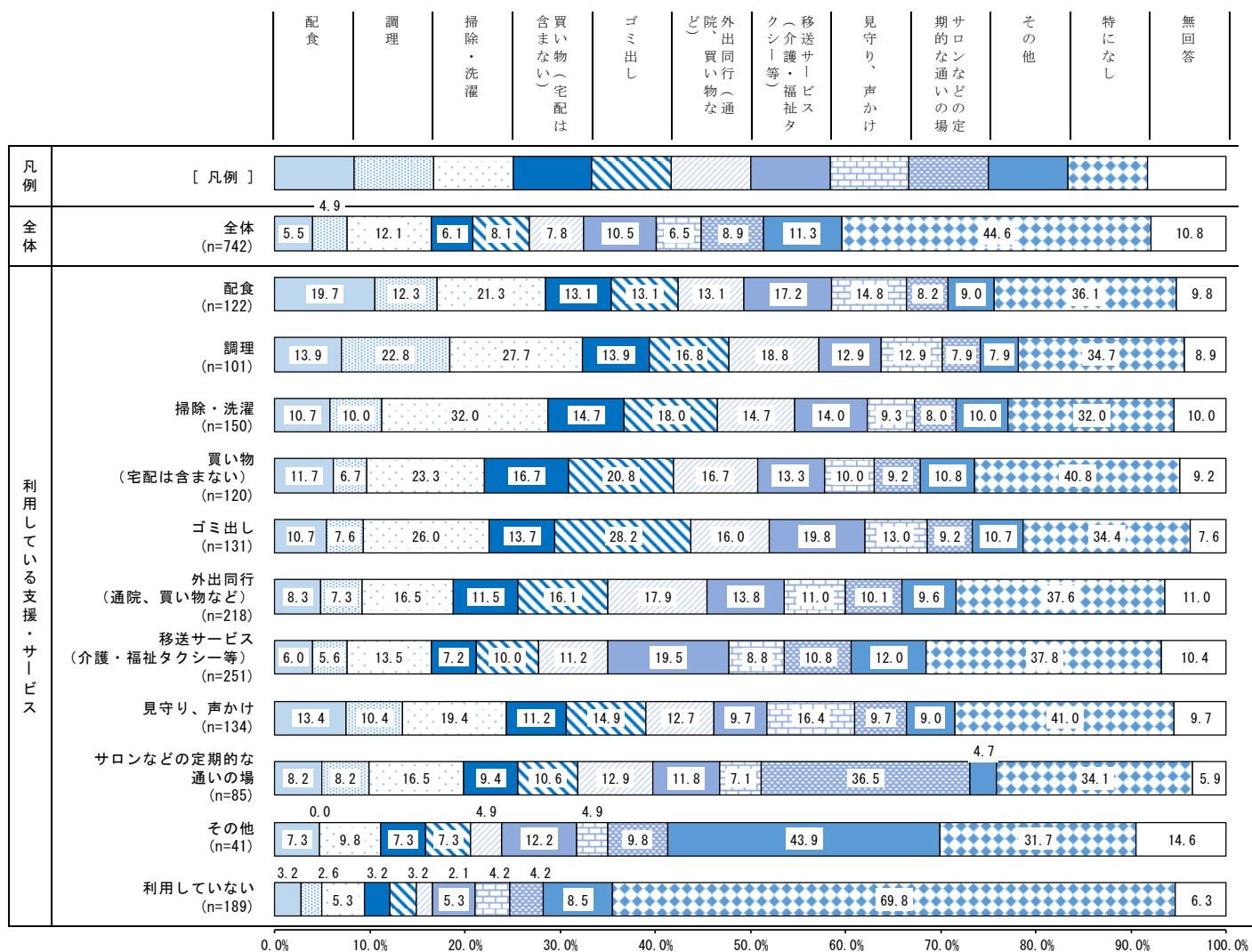


[前回調査 (R5 年度)]



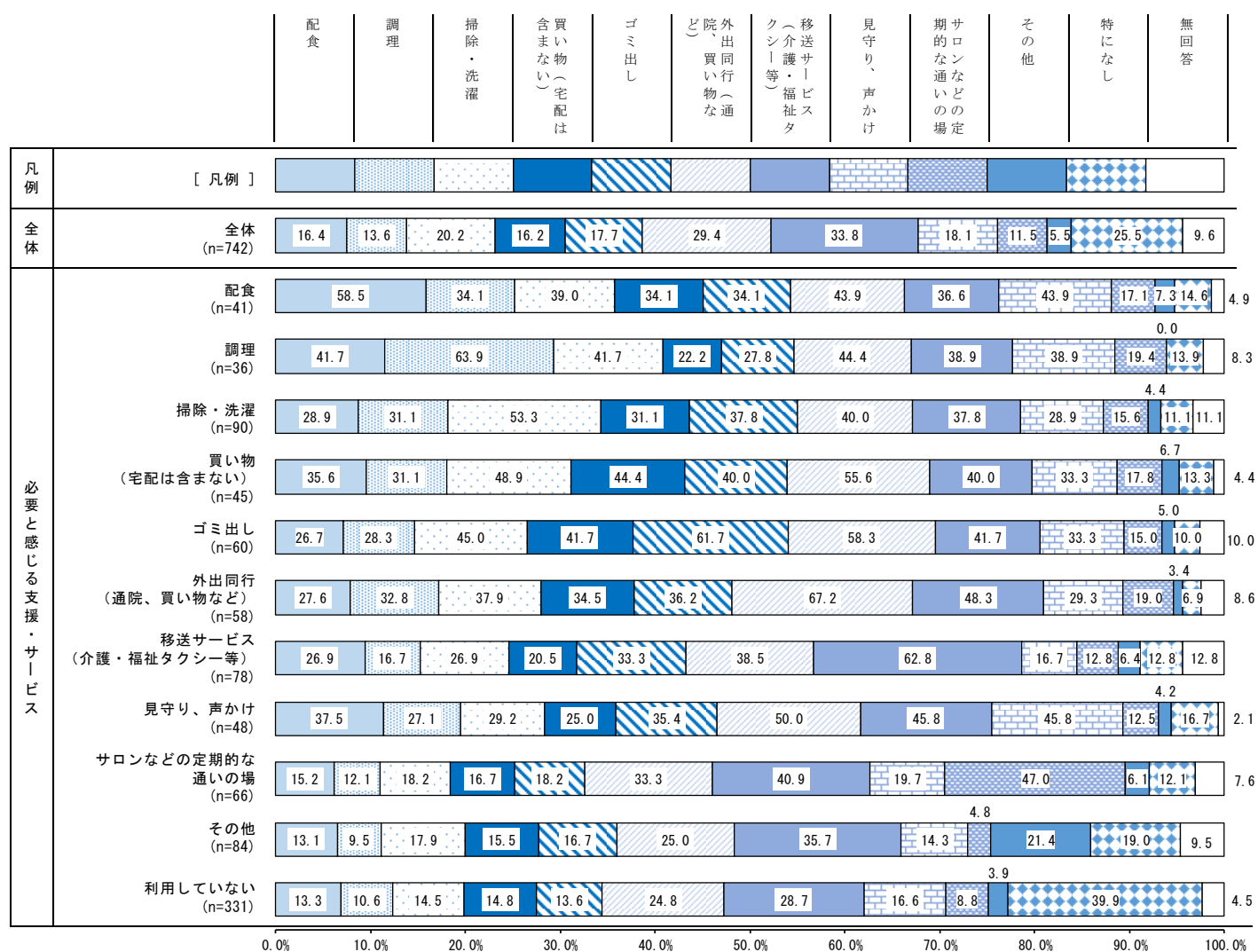
【利用している支援・サービス別にみた、在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス (MA)】

[今回調査 (R8 年度)]



【在宅生活継続に必要と感じる支援・サービス別にみた、利用している支援・サービス(MA)】

[今回調査 (R8 年度)]



在宅生活の継続に必要な支援・サービス

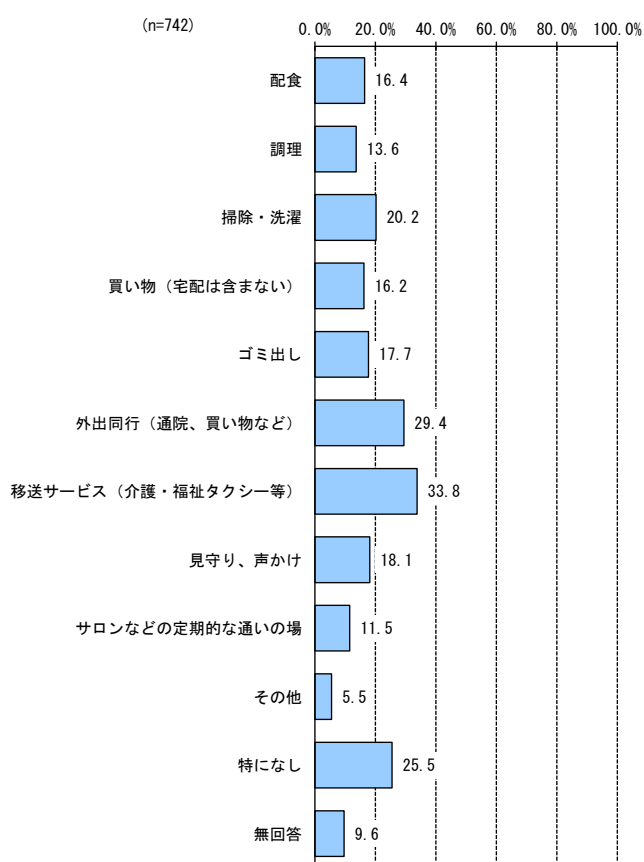
- 問8 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（いくつでも）（本編 P.14）

【全体】

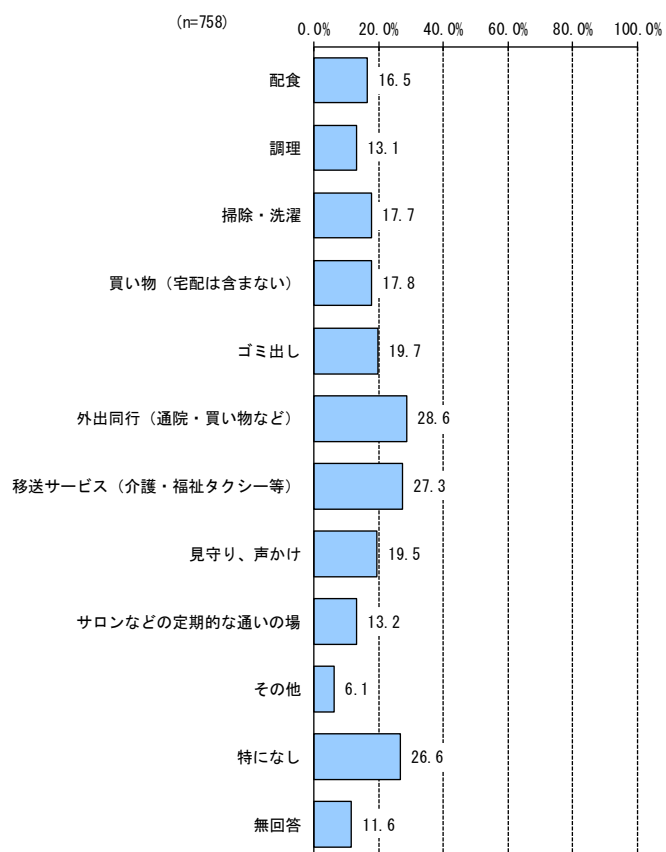
- 在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 33.8%で最も多く、次いで「外出同行（通院・買い物など）」が 29.4%、「特になし」が 25.5%となっています。
- 前回調査と比べると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 6.5 ポイント多くなっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス (MA)】

〔今回調査（R8 年度）〕



〔前回調査（R5 年度）〕



(2) 介護保険サービス

利用状況

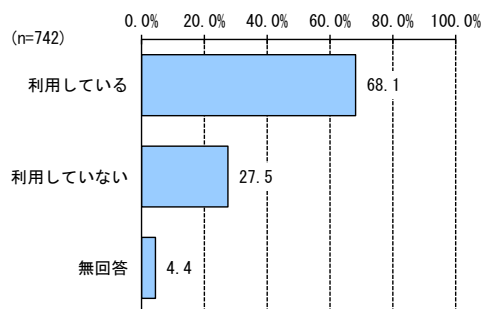
- 問5 調査の対象者は、現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用してありますか。（1つだけ）（本編 P.15）

【全体】

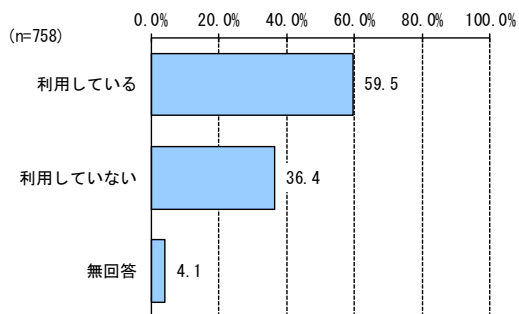
- 住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況について、「利用している」が 68.1%、「利用していない」が 27.5%となっています。前回調査と比べると「利用している」が 8.6 ポイント多くなっています。

【住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスの利用状況】

【今回調査（R8 年度）】

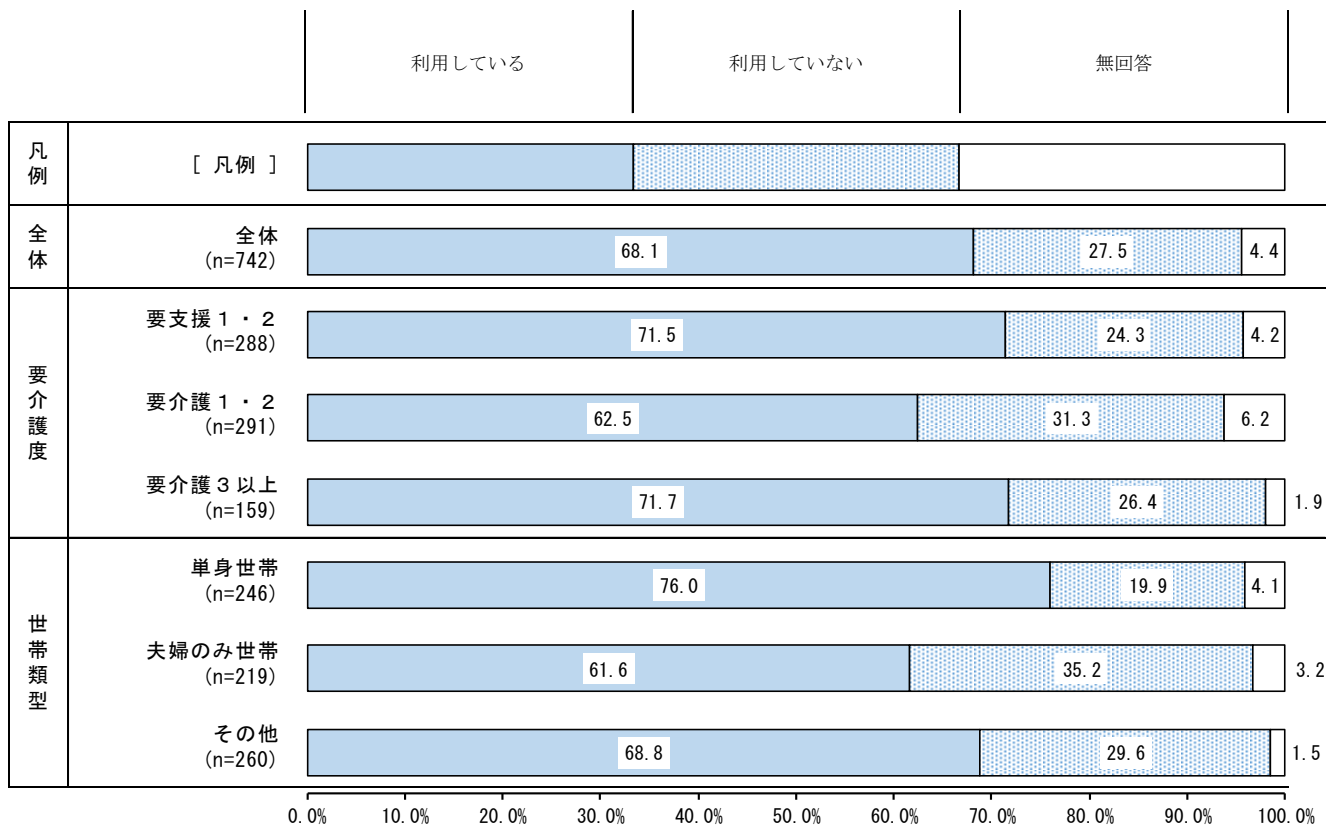


【前回調査（R5 年度）】



【介護度別介護保険サービスの利用状況】

【今回調査（R8 年度）】



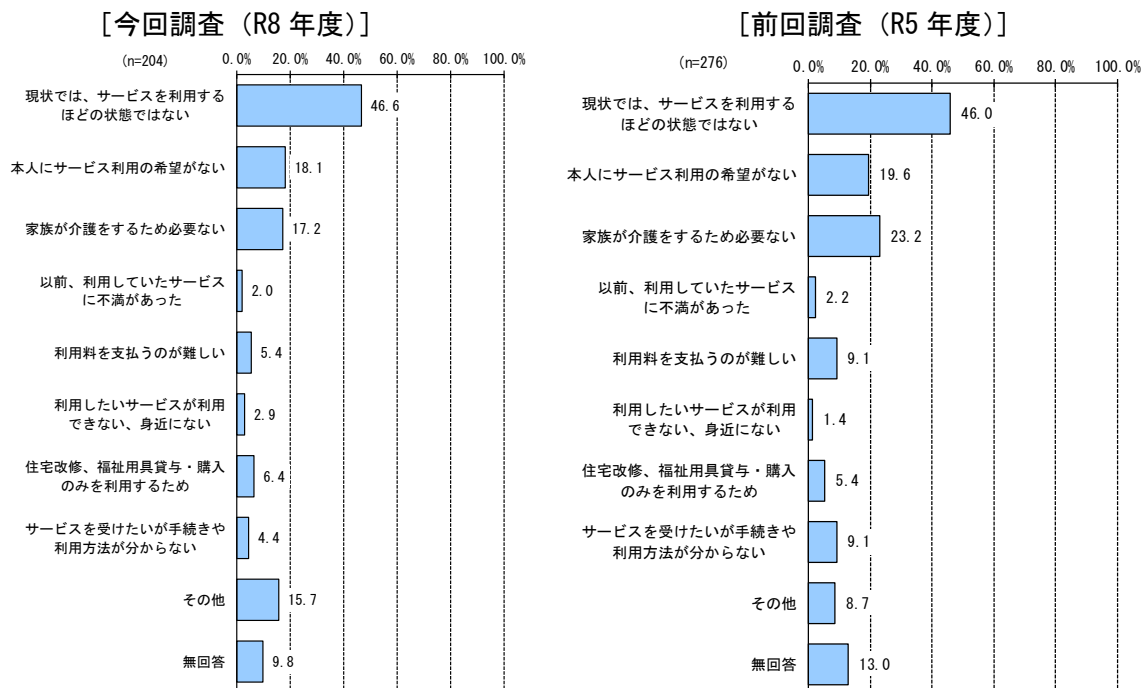
② 利用していない理由

- 問6 「介護保険サービスを利用していない方のみ」介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（1つだけ）（本編 P.15）

【全体】

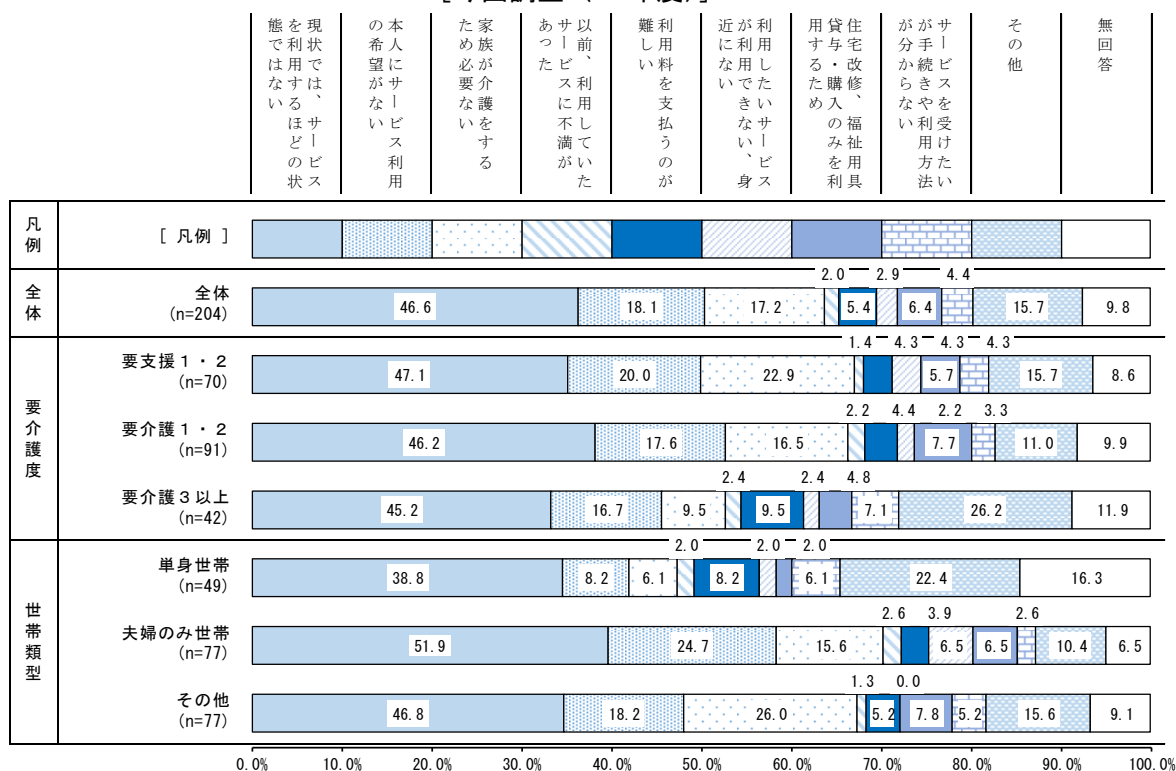
- 介護保険サービスを利用していない理由について、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 46.6%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 18.1%、「家族が介護をするため必要ない」が 17.2%となっています。

【介護保険サービスを利用していない理由(MA)】



【介護度・世帯構成別介護保険サービスを利用していない理由(MA)】

【今回調査 (R8 年度)】



施設等への入所・入居の検討状況

- 問3 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（１つだけ）（本編 P.16、23）

【全体】

- 施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居は検討していない」が67.8%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が16.8%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が11.2%となっています。
- 前回調査と比べると、「入所・入居は検討していない」が5.9ポイント多くなっています。

【要介護度】

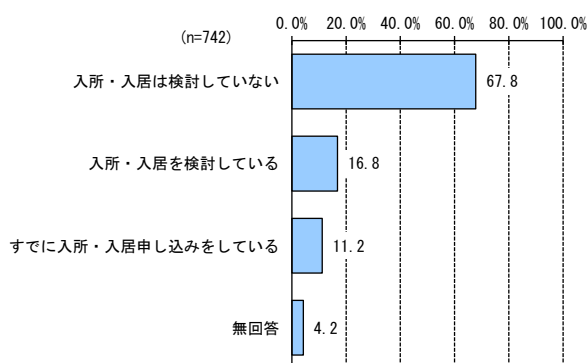
- 要介護3以上では、「検討中」が20.3%、「申請済み」が13.1%となっています。前回調査と比べると、要支援1・2で「検討していない」が9.1ポイント少なくなっています。

【世帯類型】

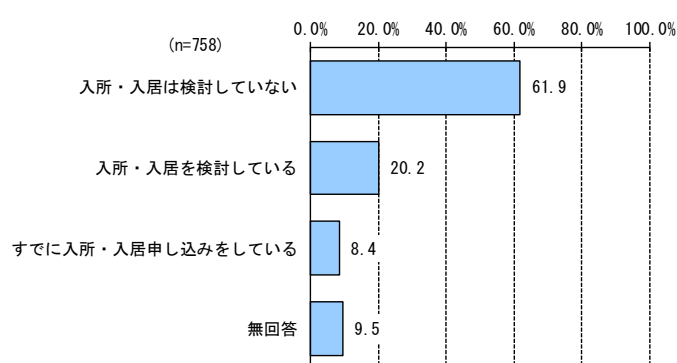
- 単身世帯では、「検討中」が17.4%、「申請済み」が16.6%と高くなっています。前回調査と比べると、単身世帯で「検討中」が7.0ポイント少なくなっています。

【施設等への入所・入居の検討状況】

【今回調査（R8年度）】

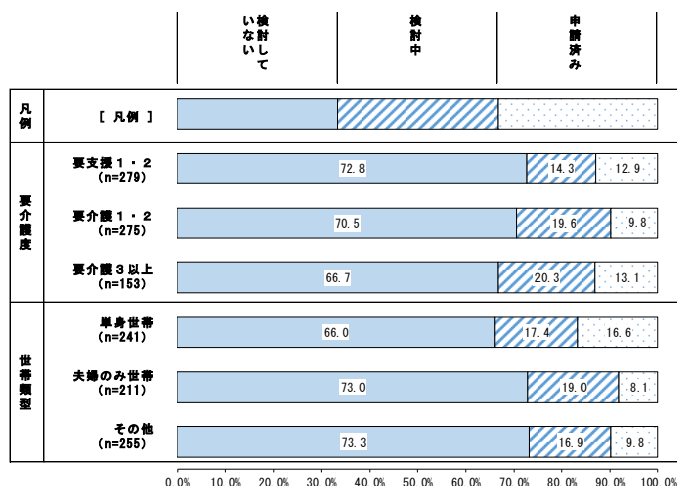


【前回調査（R5年度）】

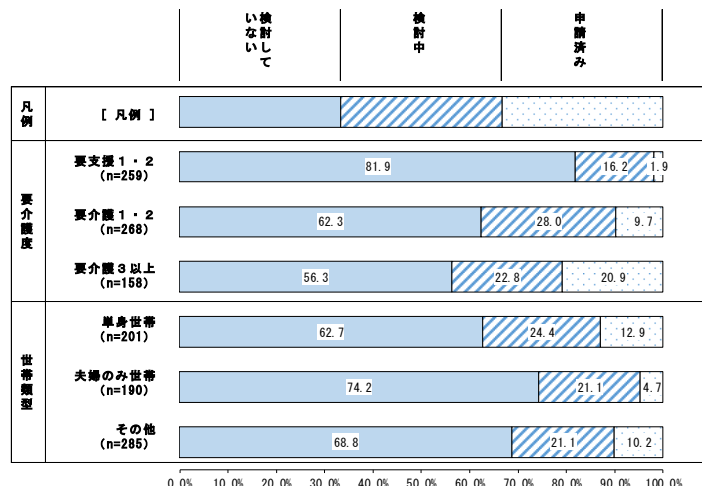


【介護度・世帯類型別施設等への入所・入居の検討状況】

【今回調査（R8年度）】



【前回調査（R5年度）】

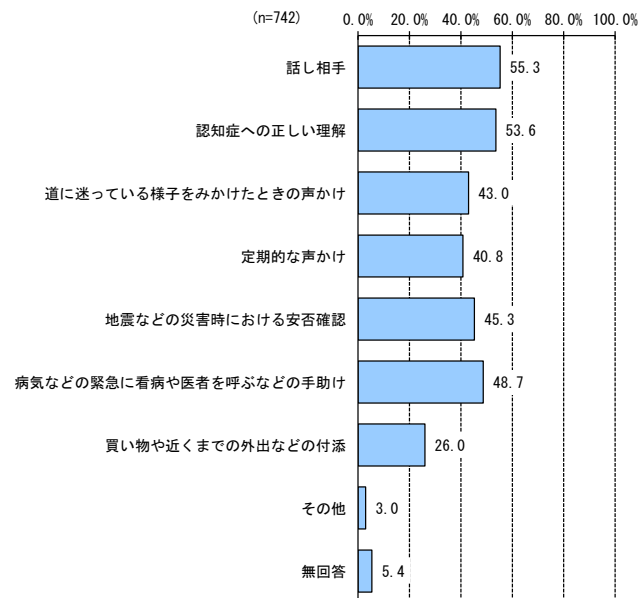


- 問12 認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには、どのような地域住民の協力があると助かると思うかについて、ご回答ください（いくつでも）（本編 P. 19）

【全体】

- 認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくためには、どのような地域住民の協力があると助かると思うかについて、「話し相手」が55.3%で最も多く、次いで「認知症への正しい理解」が 53.6%、「病気などの緊急に看病や医者と呼ぶなどの手助け」が 48.7%となっています。

【認知症の人及びその家族にとってあればよいと思う地域の支援(3LA)】



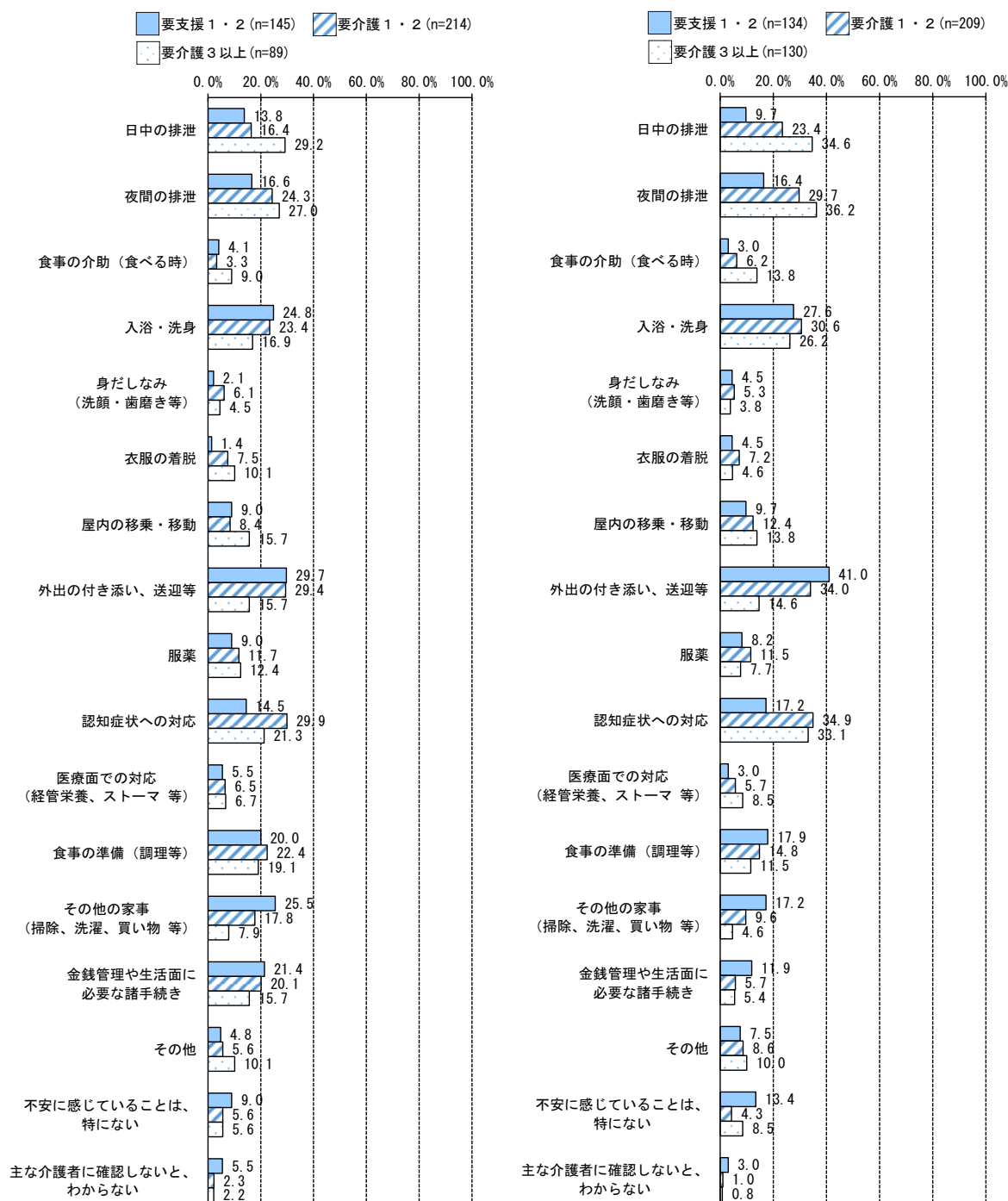
【要介護度】

- 要支援１・２では、「外出の付き添い、送迎等」が29.7%で最も多くなっています。
- 要介護１・２では、「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」が約３割と多くなっています。
- 要介護３以上では、「日中の排泄」「夜間の排泄」が約３割と多くなっています。
- 前回調査と比べると、要支援１・２で「外出の付き添い、送迎等」が11.3ポイント、要介護３以上で「認知症状への対応」が11.8ポイント少なくなっています。また、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が全ての介護度で多くなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)】

〔今回調査（R8年度）〕

〔前回調査（R5年度）〕

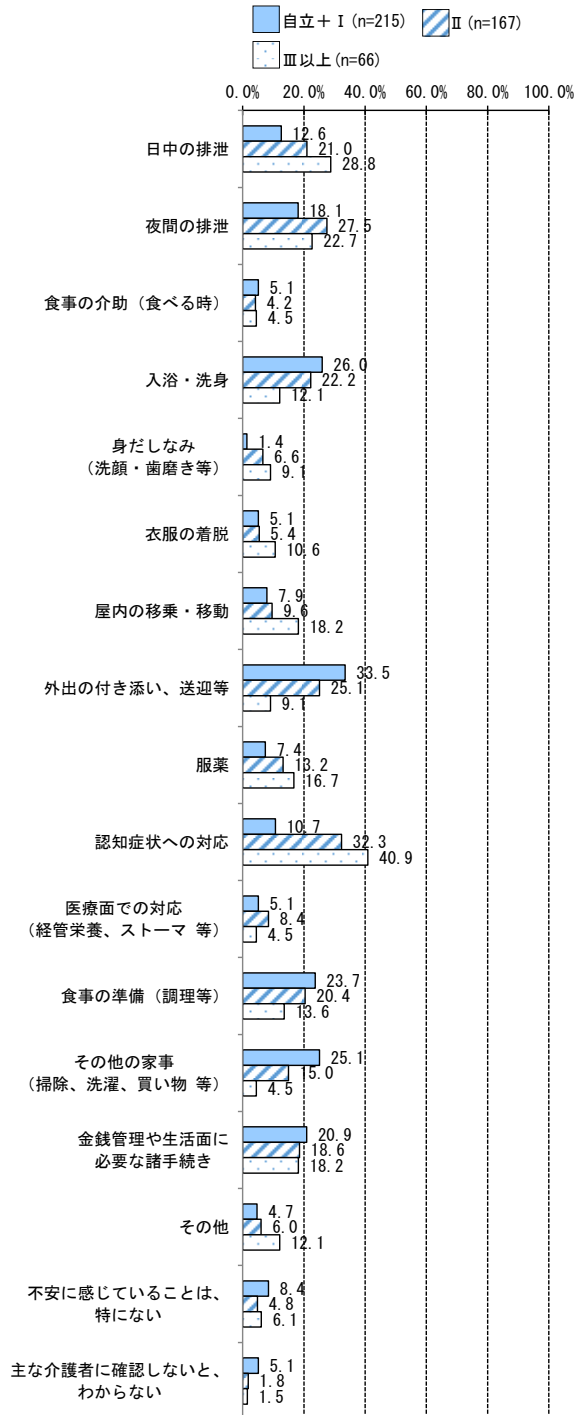


【認知症自立度】

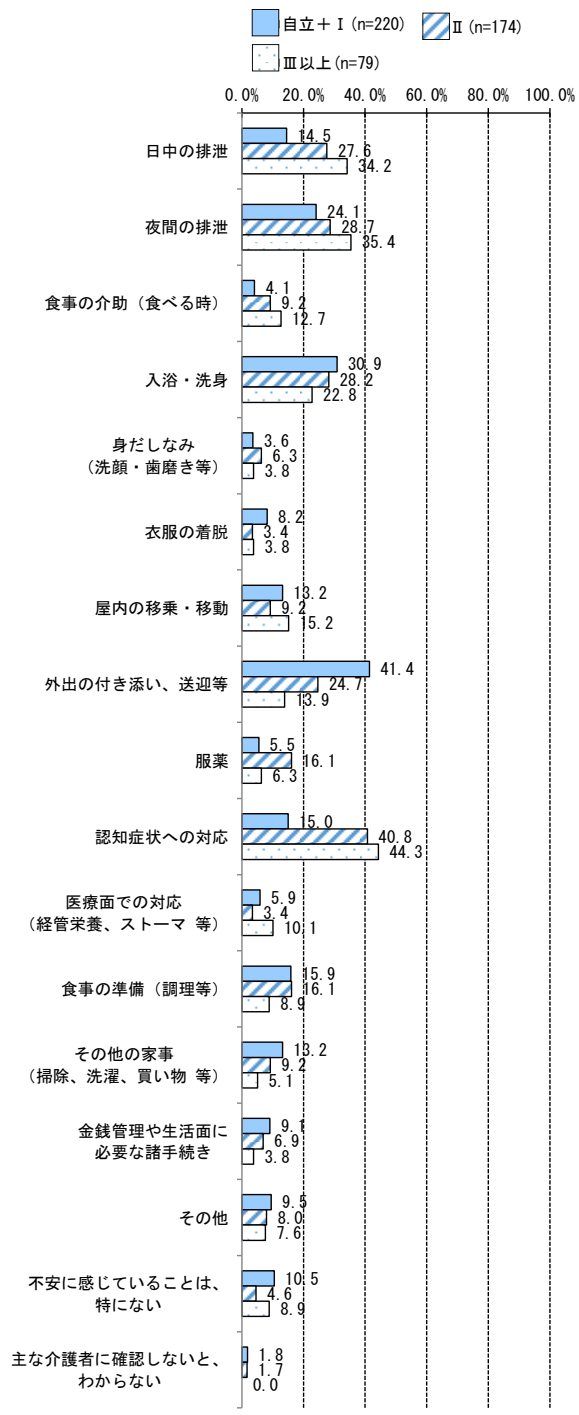
- 認知症自立度Ⅲ以上で「認知症状への対応」が4割以上と多くなっています。
- 「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が全ての介護度で多くなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)】

[今回調査 (R8 年度)]



[前回調査 (R5 年度)]



③ 在宅生活の継続に寄与する可能性のあるサービス（本編 P. 26）

【訪問系サービスの利用回数（要介護3以上）】

- 要介護3以上で訪問系サービスを利用している人では利用していない人に比べて、「外出の付き添い、送迎等」「夜間の排泄」「認知症状への対応」などに不安を感じる介護者の割合が少なくなっています。
- 訪問系サービスを月15回以上利用している人では14回以下の人に比べて、「日中の排泄」「夜間の排泄」「入浴・洗身」「衣服の着脱」などが少なくなっています。

【主な介護者が不安に感じる介護等(3LA)（要介護3以上）】

〔今回調査（R8年度）〕

〔前回調査（R5年度）〕

